

氏名 和 泉 健

授与した学位 博 士

専攻分野の名称 医 学

学位授与番号 博 乙 第 2787 号

学位授与の日付 平成 6 年 6 月 30 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 多発性骨髄腫における化学療法の治療効果と骨病変に関する臨床的検討

第 1 編 多発性骨髄腫におけるAclarubicin, Vincristine, Cyclophosphamide, Prednisolone併用療法における治療効果と予後因子に関する臨床的検討

第 2 編 骨髄腫における骨状態の検討

論文審査委員 教授 井上 一 教授 太田 善介 教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

多発性骨髄腫61例に対してaclarubicin含む多剤併用療法を行った。全症例のM蛋白50%減少における有効率は47%であった。また未治療例Ⅲ期の有効率はⅡ期33%より58%と高く、5年生存率においてはⅡ期、Ⅲ期33%と有意差がなかった。以上よりⅢ期に対して有効で、特にⅢ期でgood controlの症例に5年以上の長期生存がみられた。疼痛運動障害の改善率は77%であり、骨病変の進行した症例に対しても有効な治療法であった。多変量解析の結果、予後因子として最も重要なものは腫瘍であり、次いでgood control-poor control、血清Ca値であった。心毒性は一過性の不整脈のみであった。

骨髄腫において骨状態は最も重要な所見である。エルカトニン試験は抗破骨細胞物質であるエルカトニンにより誘導された最大低Ca値が0.25mmol/L以上低下する群を正常反応と比較して異常反応とした。骨病変の進行した多発融解、混合型では、骨粗鬆症型と比較してエルカトニン試験の異常反応、高Ca、ALP血症、骨状態のhotが高率で、尿中ハイドロキシプロリンが高値を示すことが多く、CTを用いた骨塩量定量法において骨塩量は減少していた。エルカトニン試験は骨吸収の評価、骨病変の予後を示す簡単な試験であり骨X線、骨シンチグラフィーの併用により骨状態を総合的に判定できた。また高Ca血症に

エルカトニンが有効であるかどうかの判定にも利用できる。

論文審査の結果の要旨

本研究は、多発性骨髄腫における化学療法とステロイド併用療法についてその治療効果と予後因子に関する臨床的研究と骨状態を研究したものであるが、aclarubicinを含む新しい治療法を確立し、その骨動態への影響をみたもので価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。